

令和元年6月13日現在

機関番号：33923

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03189

研究課題名(和文) トランスアトランティック・エコロジー 環境文学 / 思想の還流と変容

研究課題名(英文) Transatlantic Ecology: The Interaction and Transformation of Environmental Literatures

研究代表者

川津 雅江 (KAWATSU, Masae)

名古屋経済大学・法学部・名誉教授

研究者番号：30278387

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究により、英米ロマン主義の環境文学・思想の大西洋を横断した影響関係が、イギリスからアメリカへの一方通行ではなく双方向にあったことが明らかになった。また、ジェンダーも人種も国境も超越する現在の環境汚染、スコット・スロヴィックのいう「場所性の超越」の文芸史的・歴史的淵源が、英米ロマン主義の影響関係のせめぎ合いの中にあることが実証され、ロマン主義的環境思想の英米文化における基盤的役割と、その現代的意義が再確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

英米ロマン主義の環境文学・思想の相互影響作用に注目するという独創的な視点を取り、個別実証的研究にとどまらず、環境文学批評史におけるロマン主義の「トランスアトランティック・エコロジー」研究の体系化に先鞭をつけた本研究は、エコクリティシズムのさらなる発展に貢献する成果をあげた点に、学術的意義がある。さらに、本科研のホームページでの研究成果の公表、一般向けの講座の開催、本の出版など、現在の環境保護意識向上に関して啓蒙活動の一環を担った点で、社会的にも重要な意義を持つ。

研究成果の概要(英文)：Through our joint research, we have shown that Romantic environmental literature and thought emerged in Britain and the U.S. as a result of their bilateral philosophical and literary dialogues, rather than the predominantly unilateral influence of British thought on the U.S. Another major finding is that environmental literature identifying today's ambient contamination, which continues to spread and transcend all boundaries of gender, race, and nationality--what Scott Slovic calls "non-locality"--has its literary and historical origin in this lively exchange of Romantic environmental ideas on both sides of the Atlantic. Through our project, we have determined that environmental literature and thought in the Romantic age are one of the most crucial and essential contributions to English and American culture and to today's world in general.

研究分野：英文学、環境文学批評、ジェンダー批評

キーワード：環境文学 環大西洋 トランスアトランティック エコロジー 英米文学 ロマン主義 アメリカンルネサンス ポストヒューマン

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

エコクリティシズムは、その初期段階から現代のエコロジカルな思想の源泉を英米のロマン主義詩人や作家の作品の中に見出してきたが、イギリスではジョナサン・ベイトやカール・クローバー、アメリカではローレンス・ビュエルが、それぞれ英米文学を別個に批評する傾向があった。そうした傾向に一石を投じたのが、ジェームズ・マキューシックである。彼の『グリーンライティング』(2000)は、ロマン主義の伝統に属する大西洋两岸の書き手たちを取り上げた。21世紀に入ると、環境正義の視点からの批評、エコ・コスモポリタニズム重視の方向へ進む批評、環境の物質性を重視する批評などが登場し、エコクリティシズムはますます興隆している。

研究代表者の川津雅江は2009年にマキューシックの上記著作を小口一郎(研究分担者)と邦訳出版するとともに、2010年度から4年間、小口、植月恵一郎、金津和美、吉川朗子(すべて研究分担者)を含む8名で、イギリス・ロマン主義時代の環境文学に関する基盤研究(B)(課題番号22320061)に取り組んだ。本研究の着想は、上記科学研究期間中にアメリカ環境文学批評の日本における第一人者の伊藤詔子(研究協力者)と学術的交流を深める中で得たものである。すでにマキューシックは、主要なイギリス・ロマン主義詩人の環境意識にアメリカの環境文学が共鳴していたことを論じていたが、環境思想の影響の範囲はもっと広大で、旅行書、哲学書、宗教書、教育書、小説、児童書、日記、自伝、自然史作品などのテキストにも見出される可能性があるのではないかと考えられた。さらに、1886年にベルヌ条約が締結されるまで、英米両国で互いの国で出版された著作物のリプリント版や縮小版、海賊版が大量に発行されたことや、蒸気船のようなより安全で速い輸送機関の登場で大西洋をまたいだ人や物品の交流もかなり盛んだったことなどから、大西洋をはさんだ環境思想の影響関係はもっと多様であることが推定された。こうした環大西洋に注目する文学研究はポール・ジャイルズによって切り拓かれたもので、近年急速に発展し、研究書が陸続と出版されているが、環境思想の分野についてはまだ発展途上であった。そこで、長年共同研究してきた5名に、新たにアメリカンルネサンス文学専門家の成田雅彦(研究分担者)と伊藤を加えた研究グループを組成し、ロマン主義の環境文学・思想の環大西洋的相互影響作用に注目し、個別実証的研究に留まらず、「トランスアトランティック・エコロジー」研究の嚆矢となるべくその体系化を目指すにいたった。

### 2. 研究の目的

英米文学・文化研究におけるエコクリティシズムは、世界のあらゆる地域で環境についての懸念が高まった1990年代以来飛躍的な発展を遂げ、地球温暖化による大災害や原発事故による核物質汚染などの地球規模の環境問題がより深刻化している現在、その思潮は文学研究を越境し、多様な知的領域を融合しようとしている。こうした流れを受けて、本研究は「トランスアトランティック・エコロジー」という新たな概念のもとに、エコロジー思想発祥の元となったイギリス・ロマン主義とアメリカのロマン主義(アメリカンルネサンス)時代の環境文学・環境思想の環大西洋的相互作用・影響関係を体系的に分析・考究し、現代の環境文学やエコロジー思想に至る史的推移・発展や世界への波及の跡を解明することを目的とした。

### 3. 研究の方法

(1)本研究は、4年間の研究期間で国際レベルの成果を出すために、次の三つのサブテーマを設定し、相互の関連性を明確に意識しつつ、イギリス・ロマン主義とアメリカンルネサンスの環境文学・思想の交流の現代的意義を探るとともに、環境汚染がジェンダーも人種も国境も超越して深刻化した現在において、「トランスアトランティック・エコロジー」研究が果たすことができる役割を検討・模索した。

サブテーマ1：環境倫理想・生命理論の環大西洋的相互作用

サブテーマ2：自然地保護思想の環大西洋的相互作用

サブテーマ3：英米ロマン主義とポストネイチャー／ポストヒューマン思想

(2) 具体的役割分担としては、研究代表者が全サブテーマを総合的に統括し、各メンバーは二つのサブテーマを担当し、研究全体の関連性と体系化を常に意識しながら研究を遂行した。そして各サブテーマ担当者のうち一名が総括責任者として研究成果のとりまとめ、他のメンバーの成果報告・資料提供の責任を負った。担当者以外のメンバーはレビュー役として成果報告の審査を行うとともに、資料分析の協力を行なった。公開研究会・セミナー(計7回)では研究の成果報告を行い、集中的に議論した。また、竹内勝徳氏、スロヴィック氏、牧野有通氏、鈴木雅之氏、藤江啓子氏を招聘講師とする講演会や公開セミナーを開催(主催4回、共催2回)し、研究成果の社会的還元につとめた。

#### 4. 研究成果

(1) 平成27年度は、ロマン主義的菜食主義思想の波及(川津)、ポーの作品における全地球的な環境恐怖(植月)、現代オセアニア文学と英米ロマン主義における物質的自然と芸術家主体の呼応関係、災害文学としてのジェームズ・ホッグの作品(金津)、マテリアル・エコクリティシズムの観点からのワーズワス作品解説(小口)、超絶主義者の環境意識とヨーロッパ思想との関連(成田)、景勝地保護運動における英米の相互影響関係(吉川)、環境と核の場所の文学の関係、アメリカンネサンス文学におけるポストヒューマン的自我表象の探索(伊藤)に関して、学会発表や論文公表した。

(2) 平成28年度は、ロマン主義的菜食主義思想とメアリ・シェリー、動物福祉言説とポストヒューマニズム(川津)、ポーの『ウィサヒコンの朝』における「環境恐怖」(植月)、ポストヒューマンの観点からのワーズワス、クレア、ソロー、ヒーニーの詩作品の分析(金津)、ワーズワスとソローにおけるポストヒューマン/ポストネイチャー(小口)、エマソンの自然論とドイツ観念論哲学(成田)、湖水地方の自然地保護運動とナイアガラ保護活動の影響関係(吉川)、ソローと環境批評の21世紀的継承、ポーやソローとポストヒューマン・エコクリティシズム(伊藤)に関して、学会発表や論文公表した。

(3) 平成29年度は、食と環境問題(川津)、犬や猫と人間社会とのエコロジカルな関わり(植月)、クレアとソローの比較(金津)、自然の物質性と行為者性(小口)、エマソンと環大西洋思想(成田)、英国湖水地方における鉄道の発展と環境保護意識の発展との関係(吉川)、ソロー文学の現代的展開と核時代の文学への波及(伊藤)に関して、学会発表や論文公表した。また、平成30年3月の公開セミナー「トランスアトランティック・エコロジー ロマン主義と環境批評」では、研究メンバー全員が研究発表するとともに、公開セミナーの『予稿集』を発行した。

(4) 最終年度の平成30年度は、研究の総括として、環大西洋のラディカルたちの田園共和主義思想とメアリ・ウルストンクラフトのグローバルな環境意識の関連(川津)、イギリスの捕鯨詩(ウォラーの「サマー諸島の戦い」)とアメリカの捕鯨小説(メルヴィルの『白鯨』)の影響関係およびエコロジカルな視点の異同(植月)、ジョン・クレアとヘンリー・デイビット・ソローの自然史的作品の比較とロマン主義エコロジー(金津)、19世紀環大西洋環境文学のポストヒューマン的展開と、「人新世」意識の萌芽(小口)、環大西洋思想の文脈におけるエマソンの自然観創造と歴史意識の超克(成田)、交通革命に伴う風景観光の発展と英米ロマン主義作家の再評価、環境保護意識の高まり(吉川)、ソロー文学における英文学のアメリカ的展開とトランスアトランティックのエコロジー思想形成過程(伊藤)について考察し、研

究成果の一部を学会発表や論文公表した。また、本科研の研究成果の総括を海外の研究者にも発信するために、下記和文研究書に所収する論文の概要的英語論文を所収した「研究成果報告書」の冊子を平成30年3月31日に発行した。

(5) 本科研の最終的な研究成果のとりまとめとして、研究書『トランスアトランティック・エコロジー 環境文学を読み直す』（彩流社、2019年10月）を刊行する予定である。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計47件)

川津雅江、ローストビーフと菜食主義 イギリス・ロマン主義時代の食の政治と倫理、人文科学論集、査読有、Vol. 98、2019、pp. 39-50 DOI: 10.15040/00000352

植月恵一郎、『白鯨』解説 造形芸術から見る文芸作品の二重構造、日本大学芸術学部紀要、査読有、Vol. 68、2018、pp. 13-31

吉川朗子、ワーズワスと第一次世界大戦 愛国心、戦没者追悼、景観保護、神戸外大論叢、査読有、Vol. 68、No. 1、2018、pp. 37-52

川津雅江、イット・ナラティブとポストヒューマニズム、人文科学論集、査読有、Vol. 97、2018、pp. 27-39 DOI: 10.15040/00000243

KOGUCHI, Ichiro、Contact with Materiality: Wordsworth's Alps and Thoreau's Ktaadn、言語文化研究、査読有、Vol. 44、2018、pp. 223-41

成田雅彦、エマソンの「透明な」自然と環大西洋思想の遺流、専修大学人文科学研究所月報、査読有、Vol. 292、2018、pp. 51-69

川津雅江、貧者のレシピ ハナ・モア、チャリティ、環境、IVY、査読有、Vol. 50、2017、pp.1-26

川津雅江、マテリアル・フェミニズムからマテリアル・エコリティシズムへ、人文科学論集、査読有、Vol. 96、2017、pp. 29-43 DOI: 10.18910/68022

植月 恵一郎、ポーの『ウィサヒコンの朝』と環境恐怖、日本大学芸術学部紀要、査読有、Vol. 64、2016、pp. 27-39

吉川朗子、ナイアガラの保護運動と英国湖水地方における鉄道敷設反対運動、神戸外大論叢、査読有、Vol. 66、2016、pp. 81-98 <http://id.nii.ac.jp/1085/00001917/>

ITOH, Shoko、Poe and Posthuman Ecology in the Post-Apocalyptic Dialogues、ポー研究、査読有、Vol. 8、2016、pp. 29-44

KOGUCHI, Ichiro、Shadow of the Non-Corresponding Other: 'Material Nature' in Wordsworth's Poetry、IVY、査読有、Vol. 48、2015、pp. 27-51

NARITA, Masahiko、The Phenomenology of Family-Killing Fatherhood: Charles Brockden Brown's *Wieland* and Dubious Reason in the Early American Republic、*The Japanese Journal of American Studies*、査読有、Vol. 26、2015、pp. 37-56

[学会発表](計41件)

KAWATSU, Masae、Transatlantic Rural Republicanism and a Boreal Wilderness: Wollstonecraft's Environmental Consciousness、*Wordsworth Summer Conference*、2018

金津和美、ロマン主義の世界的流行 島国イギリスと二つの大陸、比較文学学会東北支部大会、2018

小口一郎、William Wordsworth, 'Steamboats and Railways' 「人間の時代」と環境、イギリス・ロマン派講座、2018

YOSHIKAWA, Saeko, Motor Lyricism—Some Romantic Motorists in the Lake District, Wordsworth Summer Conference, 2018

ITOH, Shoko. Transpacific and Transatlantic Poe: Poe and Hagiwara's Blue Cat, International Poe and Hawthorne Conference. 2018

川津雅江、貧者のレシピ イギリス・ロマン主義時代の女性、チャリティ、環境、名古屋大学英文学会、2017

植月恵一郎、グレイと諷刺 「愛猫の溺死に寄せるオード」の批評分析、イギリス・ロマン派学会、2017

小口一郎、Wordsworthに環境感受性を探る(その2) 切られる木をいたむ、イギリス・ロマン派講座、2017

YOSHIKAWA, Saeko, Steamboats, Viaducts, Railways—and Motorcars? Wordsworth and Modern Travel, Wordsworth Summer Conference, 2017

川津雅江、バーボールドのネズミと動物愛護、イギリス・ロマン派学会、2016

植月恵一郎、黒人奴隷のトランスアトランティック チャタトンからメルヴィルまで、イギリス・ロマン派学会、2016

KANATSU, Kazumi, The Posthumanist 'still, sad music of humanity': An Ecological Reading of The Excursion, Book IV, Wordsworth Summer Conference, 2016

小口一郎、Wordsworthに環境感受性を探る、イギリス・ロマン派講座、2016

成田雅彦、「透明な自然」の発明 エマソンとトランスアトランティシズム、イギリス・ロマン派学会、2016

小口一郎、呼応なき「他者」— ワーズワスにおける物質的自然、名古屋大学英文学会、2015

[ 図書 ] (計16件)

成田雅彦他、彩流社、繋がり詩学—近代アメリカの知的独立と 知のコミュニティ の諸相、2019、361 (79-98)

川津雅江、金津和美他、開拓社、十八世紀イギリス文学研究 第6号 旅、ジェンダー、間テクスト性、2018、260 (93-109、166-84)

吉川朗子他、金星堂、ノンフィクションの英米文学、2018、438 (63-77)

川津雅江他、彩流社、ジェイン・オースティン研究の今、2017、397 (319-35)

川津雅江他、彩流社、増殖するフランケンシュタイン、2017、356 (27-58)

YOSHIKAWA, Saeko, et al., Lexington Books, Victorian Ecocriticism, 2017, 210 (15-32)

伊藤詔子、音羽書房鶴見書店、ディズマル・スワンプのアメリカンルネサンス ポーとダークキャンオン、2017、xii+323

金津和美他、春風社、幻想と怪奇の英文学II—増殖進化編、2016、478 (344-62)

成田雅彦、伊藤詔子他、開文社出版、ホーソーンの文学的遺産 ロマンズと歴史の変貌、2016、462 (3-25、215-39)

伊藤詔子、NHK 出版、はじめてのソロー 森に息づくメッセージ、2016、159

植月恵一郎、金津和美、川津雅江、小口一郎、吉川朗子他、音羽書房鶴見書店、ロマン主義エコロジーの詩学—環境感受性の芽生えと展開、2015、298 (23-55、83-104、107-28、57-82、243-64)

[ その他 ]

ホームページ等

[http://sunrise-n.com/transatlantic\\_ecology/](http://sunrise-n.com/transatlantic_ecology/)

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名: 成田 雅彦

ローマ字氏名: NARITA, Masahiko

所属研究機関名: 専修大学

部局名: 経営学部

職名: 教授

研究者番号(8桁): 00245953

研究分担者氏名: 植月 恵一郎

ローマ字氏名: UETSUKI, Keiichiro

所属研究機関名: 日本大学

部局名: 芸術学部

職名: 教授

研究者番号(8桁): 10213373

研究分担者氏名: 吉川 朗子

ローマ字氏名: YOSHIKAWA, Saeko

所属研究機関名: 神戸市外国語大学

部局名: 外国語学部

職名: 教授

研究者番号(8桁): 60316031

研究分担者氏名: 小口 一郎

ローマ字氏名: KOGUCHI, Ichiro

所属研究機関名: 大阪大学

部局名: 言語文化研究科(言語文化専攻)

職名: 教授

研究者番号(8桁): 70205368

研究分担者氏名: 金津 和美

ローマ字氏名: KANATSU, Kazumi

所属研究機関名: 同志社大学

部局名: 文学部

職名: 教授

研究者番号(8桁): 90367962

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名: 伊藤 詔子

ローマ字氏名: ITOH, Shoko

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。